駿河國志

五

十八

特1000
8

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

特1000-8

# 駿河国志卷五目錄

國府之東一


八幡山
補陀洛山久能寺
三穗浦
草薙山
平澤
一色村
元長寺
負松山蓮永寺
善長寺
久能山
觀冨山龍花寺
清水湊
小康原
池田
清水寺
長元院
愛岩山福壽院


国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

駿河國志卷第五

國府之東

○八幡山　有渡郡小河ノ自府城十六丁

○八幡社　祭神誉田天皇

四光院　烈祖時養生所也蔵

八幡社　領五十石　神職高二百五十四石　安西主膳

葵章　葉碇紋

本社南向也鳥居楼門特殿石坂百十五檀

八幡山在府東數町特起平原山半有八幡祠其南有右東山亦特山也地内上東西二百八十間南北六十五間山上小社有此山古國郡の中一峯の丘山ありて西車れ六十五間

居西如鈎北幡山稍小山下多古墳又有黒塚類山陵者封者往往

獲瓷器山中有横葉寺曰聖光寺

十町ばかり

有東村といへり有渡の東にて

なりとぞ　有東山と云ふ　八幡山の南の名山なり　社邑の民居

の村を八幡村といへり久能山へゆく街道なり

此社八官村の地なり　神護景雲二年九月大宰の神を

阿蘇廣嗣に祀らしむ　五畿七道の國府に誉田天皇祀る

年紀甚だしられども義家朝臣奥州征伐の時此所にて祈願を
起し再び修造ありけるとぞ年中の神祭今猶むかしの
まゝにて前夜仲冬に大禮の神事あり次に神の光と共に流し
に御代々の御祈[illegible]あり 毎年八月十三日相撲興行あり
○近き比何人か奉納の和歌に八幡山の文字を句の上毎に
すゑてよみし歌

春　やまの端を出る朝日の影さして紅にほふ花の木のさき

夏　またれつる[illegible]の時鳥一声[illegible]

秋　たまたまに[illegible]の寝覚[illegible]の[illegible]

冬　やま風の[illegible]の[illegible]

神祇　満ちかけや何事も[illegible]八幡山神の恵みは万年の始

八幡村ヨリ高松村往来左右並木頼宣卿熊野杉ヲ植給久能山往来寒暑ノ助ト成玉フ

八幡祠在府城東南石磴一百十五級其上有廟屋廟官八幡氏

○八幡村にて織出せる木綿横縞あり是を八幡木綿といふ裏の
かたより見れば亀甲に見ゆる也

○五月五日は此所にて作る粽を糯米に包み椿の葉付にてまき
[illegible]て作り茅にて包み蒸て製する也

○軍神祠在曲金村毎歳六月十九日有神會盛設煙火戯

○伊軻麻神祠在上嶋村 ○大正寺曹洞宗在大谷村寺田三十石有朝比奈泰勝墓

志太郡志 久能 社寺 府の東三里に在 小鹿山草薙山 [illegible]

○久能山 有渡郡ニアリ 自府城行程弐里二十町アリ

[illegible]

[illegible]信君入道梅雪[illegible]

[illegible]軍法の[illegible]

[illegible]

久能の城と為り世山を去る十五の里海を隔てて久能寺の傍に城あり
矢部姉川両寺の名ありて古城跡なり
三年の料紙筆墨を久能寺に納る
合三百七拾余人を召寄 亜衛らせられ
神君の法領国となりてより 梶原土佐守
年より再後府中城なれり久能の城の
なる事山を法の如く廣風秋高
城となりなり

東照大權現官御鎮座

御社領 三千石 交代寄合久能住居江戸屋敷数箇所
御宮奉行 千八百石 梶原甲斐守
久能近邊領地
百俵 組与力 八人 内二人 百廿俵取
廿俵一人扶持 組同心 三拾人
与力同心久能住居 久能より御門番勤ル

名称志有浜渡 是ハ東部海南の海渡
と云風土記に自久能浦至御殿嶽
神社之来部渡者
海渡

事業物語むかし駿河国の名渡津子
部女竹風くらう寄をとりて今の
世にハすると弾とて東西なるまろ
石橋苔 新仮 暉柳寿覚 を
度長ノ比の代官ト云 三度任ト云

武田氏 山本勘助又五
郎信義山久能ヲトリハ
昔年より能を立て主ノ
永禄十年辰武田信玄尾
張法を求ヨリ仏事用力セ
久能ヲ能ノ紙ノ坊退ヲ
ヲ作ル所ヲ山城ヲ東
西人渡法後力セ城ト成
城代今福長宗同性井伊
主ヨリ移教高ヨリ久能
城モ成城ト成ヲ八中村
武アヲ補氏駿府城ヲト
城付久能山ハ要衝地ノ
トテ寺ヨリ社ヲハ唐長
十二丁五年
永禄元駿府城ヲ鎮定ル
主ヨリ久能山堅固ノ名山ノ
トテ年多上ヲ廿正位ヲ
ヲ之代市ハ妙音院ニ
座主ヲ能ノ一山ノ元徒
能ノ者ヲ

目代

現米百石 中島主税
口米七拾俵
三拾俵 手代 歳人
口米五俵
現米百五十石 徳音院

學頭

古坊 五十石宛 三明院 大寿院
宝性院 定智院
新坊 三十石宛 林光院 長円院
玉泉院 松巌院
千俵宛 正覚坊 円智坊
四拾俵宛 歳人

御燈明僧

御墓所奉行

国立国会図書館 駿河国志 8巻 特1000-8
ガラス使用

御墓所人　　廿五人　六人
御供樹　　廿人　　廿人

四月十七日　御祭禮此日諸人登山を免ス
正月十七日　諸人登山を免ス此時日後府御城代在番の
番ハ一二の加番後府御代官同町奉行参詣拝礼
四月十七日　後府御定番三加番在番ハ御書院詰ハ参
詣拝礼　七月十七日　九月十七日　諸人登山を免ス
其外ハ登山の人ハ禁ス
神君此御山に鎮座ましまし山魏ゑ霊場なり
神光萬代を照し給ふ樹とも枯ス
神君此の所を貴き原の荒根山城を中心に一統の

太平記唱へ元和二年三月府城あて従一位を改ら
れ同四月十七日に神ゆ此山に霊廟
を安鎮ましまし是御遺言に因て
七日に　みてゆきまつりき
小国家法護の　神徳天地とやまと疆を形ふ
大樹家光公天下にたまふ御ましまし代を
ましまし御代にあり民寛永きのえいぬの年
御上洛ましまして伊勢に参詣ましまし
伊勢参詣ましまし御社参ましまし御家の
世代世代に伝ふ
君の法ましまして治まる

改事源
慶長十六年冬
甲斐院行方
知れず其人相
皆知る恵思甲
斐り前知大
七三尾乃大蟒
後皆班法人
多見之

八院右取付ノ
院内二井アリ
勅次井ト云山
本勅次堀ト云

寢廟前表渡
二尺石水野
奉

烈祖寢廟在久能山山状如削特起海濱自麓十七盤抵外門
門内左右八院列次其上有樓門門扁　元和辰翰其下石獅
相對樓門内有銅表表而立層浮屠金碧露松桔之表
右石階階上右為神樂堂左為神厨其間銅燈如林又有石
階凡二十餘級其上為寢廟廟後有吉石寶塔高大餘塔側
右若樹自神厨左折而上六所詩右愛宕祠前銅燈納言
忠長所獻刻去其名久能山故右禪刹永禄年信玄取以為城大
兵入駿甲將今福常閑幸物走

烈祖薨遺命毀城建廟每歲正月十七日四月十七日並有神會廟
柳沢御山ヨリ南向ノ御山ノ前ノ海ヲ渡リ根ざヲトシテ
三千石廟官徳音院大僧都廟　神原越中　祝宮中嶌氏
町ヲ通リ御宮ノ方ヘ向ヘハ九ツ家行　柳原田斐守　左ノ
別当徳　音院　英　同代ノ名數多アリ　下馬札
ヲ立ノ右ノ方ヘ向ヘ大師ノ堂ヲ過ギ　まつり坂十七曲リ
巖代ヲ過テ屏ヲ立テ谷ヲ過ギ　谷ヲ過ギ　ざざ坂
似さう坂ノ曲リ角ヲ急ヲ　羽宮ヲ經テ又坂ヲ上リ
石ノ戸ヲ過ギテ　石ノ橋ヲ渡リテ　市坂ノ上ヲ過ギ
上ヲ市ノ門稽ヲ　柳原田斐守　市坂ノ大井川ヲ渡
信川ヲ同山伊豆海ノ眺望有　夫ヨリ又坂道ヲ曲リ登レハ
ヨリ坊中ヲ九ノ口ヲ大寺院　玉泉院　玉泉院長
寺院　宝性院　松巖院　林光院ノ八坊ヲ過ギ　又

厚木板六七十枚程あり　樓門あり額い
後水尾院勅筆かく　東照大権現と書の
かく　着長尤右相對向　袍文若松巻樂像豪胡蘆　裏ゑ指大相對
向御樓門内尤の掛ゑ沈冠者　神　主藤ゑ沈冠者　衛府ゑか
右の方ゑ西向ゑ弁才天堂青面金剛の堂あり　同なりしかるに社者
甚前ゑ御樓ゑの密柄の樹あり　柵ゑ甚一種ゑ社ゑ
護摩堂あり　夫より又鹿ゑ板六七枚あり　唐銅の御鳥居
あり　尤ゑ方五間　塔尤のかく　鐘樓あり　又夫より七八枚厚
ゑ板あり　板の尤右石の瑞籬尤の方御供所御内陣ゑ廊下
あり　右の方神樂所奉納の繪馬あり　石の手水盤あり
中通り切石尤右奉納の石燈籠数多あり　又鹿ゑ板

十四五枚あり　御唐門尤右瑞籬あり　御幣殿唐戸金鎖を鏤
免御畳ゑ板縁　御拝殿三十六畳　仙の繪筆者　御畳ゑ
縁御石間御畳羽黒縁御内陣御畳雲綱縁也　御本社南向
四方廻廊あり　向して尤の唐戸の入口あり　夫より御宝塔道なり
平人入事なし　禁殿石板二所ゑ　石の御華表又一枚板あり
て御宝塔西向なりとも　御供所の裏　森の中ゑ木の華表ゑ
て夫より山道いて行く　石の多岩中間ゑ愛宕の堂　稲荷
の社あり　御廟の後路山の嶺ゑ　うしろの岸数十丈の絶壁
なり　なしかるゆえ　眺て　恐ろしき事なり　愛宕の入口
多岩の西ゑ　御古墳あり　夫より沈冠者食所　新神殿　御神輿ゑ古墳ゑ
其向ゑ御供所あり　其外の方　岸絶　古墳ゑ　古墳ゑ

風呂崩し　谷底へ落るか如き気色す　行佛ありし此所に
武田信玄持の時代は搦手口の坂道なりしと云　此坂道は
神君御攻め切てより数十丈の切岸となり　書記に満役人
見置所なり　御膳所の西に御築山　并溜池あり　手把に

御茶園　御山下古屋敷
御膳所道御門あり　是より出れて御楼門の上へ出る所なり　御
本社の左に御本地堂　薬師如来也　堂南向　御本社より少し
西向に御宝蔵　一流あり　甚一棟也　荒神の堂あり　是より
下山されば　神楽所の脇へ御通所なり　惣て御堂社の荘厳
金銀珠玉を鏤め　美麗言語に述かたく　筆紙に尽しかたし
切りし　御山上より井戸三流あり　大木生茂りて　車水
御山形なし

○井出八郎　烈祖駕士　輌車師　遠之日　如久能山下殉死　其墓在石蔵院門前

原智積院末
○補陀落山　久能寺　有渡郡矢部村より府城へ二三里余
境内八千四百坪
真言宗　寺領弐百廿五石　府中浅間の学頭　法城坊中十
軒なり　本は南寺ありしと云　久能山にありし　永禄十一年武田
久能山城地となり　此所へ移りし
門前は馬場の右なり　二王門　境内千坪余なり
正面は薬師堂　開山堂　祖師堂　不動堂　鐘楼あり
十二所大明神なり　左の方に坂道三丁程行きて　観音堂有

久能寺真言宗　初在久能山　信玄據山築城　乃徙今地　有観音堂　蔵海對芙岳　佳麗也　有弘法大師五大尊図　恵心僧都千手観音図　聖一国師入宋時所着袈裟

○久能寺有源延尉笛　或云非舊物　余友江英穀精音律　嘗観此笛　曰即非延尉所吹　果是佳笛

名勝志　又按　楼門に今久能寺の在る所は久能山にありし　神祖此久能山に遷座ありしより　今の所へうつし千手寺を　妙音寺と号す　後に妙音寺を絶て　妙音寺村と云　矢部村の内なり

五間四面　本尊千手観音　行基の作　坂中より二三穂
富士の眺望絶景なり　二月十八日常楽会あり
本堂不動明王　行基作
久能山の縁記に　推古天皇の御宇　秦川勝か二男尊良　七十日巳　の守久能と云ふ者　山に入りて　獣を狩りて　海を遊びし所で　古き杖の

什物
五之部　新　二幅　八幡地蔵　化身
形相法名　師
表具　蜀江錦　今川義元寄附之
五大尊　弘法一幅
不動　新山　御筆
千手観音　一幅

重る寺と云る 伊川記宗川記 社日記出入等 同按記 橋府記 中臣祓通等 補陀落寺 布袋門 流夜三昧 観音経等 観音霊験記 聖一国師記 天台宗記作 雲門 観音像 聖一国師入宋 廿五日夜 有自記原等 安置之所経 此女房申渡之等 此寺安置記 宗鏡録 高山寺 中村式部少輔家記 深草 あ道

樹より光ありて旭日の如し漁人怪しみ入て見れば射落されたる
きは長さ五寸ばかりの閻浮檀金の千手観音の像なり久能忠仁是を
帯して山中に寺を建像を安置すすなはち久能の家を寺号とす久能に
告ていはく我は補陀落山より来るなり善哉沙彌を安置せよ我経
衆生を済度せんの為に夢覚て其霊験をしれり因て補陀落山と云寺号
建久能寺と名付けり其後行基菩薩此山に入て古き楠を伐千手の
像七躰を刻み彼の五寸の像を新刻の像の腹に納めたるなり七躰
合七所安置す 又東福寺の開山聖一国師は当国藁科の人にてもと此
久能山の堯弁法師を師として台教を学び其後宋国に入て仏心
宗の伝へ帰朝の時に馮瑞の瑞鼓を此寺に納し由也
山家集、
するがの国久能の山寺にて月を見てよみける　西行法師
なみだのみかきくらさるゝ旅なれやさやかに見よと月はすめども

長明海道記
しほの浜路をわけ行ば浪の音風の声にや心すごき所也
此浜の東北に異地の山寺有り四方皆霞にあれて四明天台の末寺なり　三を
寺浜の北は西は地に溝く叢楽を此所にまさなくすむ補陀落
とふ人天人の浜松の下に楽を奏して舞けり其後此山に舞けり
又人の見る様にみるめもなく漁人にかりける二の鼓を嶋
大史是を捕とりて寺の宝物となして此寺に奉納しき
て法会の始行は大史其子孫舞人氏と共に二月十五日の舎とて
寺中の大営也そのほか天人の舞の面影の鼓の音毎年に止す
曲風をさへ聞くは浜にてれば雅吟ありて波
小鼓何となく天人の楽など似たり

神女ハ乙女の羽衣の物語りけるあとの出浪

右の縁起ハ有渡の山寺何中[illegible]の久能の縁起なれとも寺僧[illegible]

[illegible]

○観冨山 龍花寺 甲斐大宮村本寺末 有渡郡矢部ニアリ 久能寺ノ三町程右ノ方ニアリ

日蓮宗 寺領二百六十石

龍華寺日蓮宗在久能寺南泉池奇麗有仙人掌一根

此寺ハ甲州大野本遠寺末として紀州の養珠院殿の建立

蓬萊方眺望亞久能寺

寺領も寄附せられ 其寺の隠居日遠上人逝年

此所ハ景地残見として廟所もありしか今も一篇記す

寺中の所々座敷餘の事なく日遠の廟碑あり

境内奥の方三尺計の杉垣ありて其前に前に

十間計りのもとに松右の方に大松造り本のかし千歳

大蘇鉄九本二股なりて奇麗なり 姫[illegible]

見れは冨士を盆山のことく入海を泉水のことく三保の松原を

屏風のことく伊豆の山々蒲原薩埵山興津清

見寺[illegible]目前にして眺望無双の風景なり 奥の松

辺江の八景左の如く[illegible]

龍花寺八景

三保夜雨　冨士暮雪　清見秋月　薩埵夕照

田子帰帆　清水晴嵐　久能晩鐘　貝島落雁

名勝志 或ハ三穂又御穂 三保 有渡郡 [illegible]

○三穂 有渡郡 [illegible]郡ニ跨 有渡郡折戸村ノ方ヨリ南ヘ一里余

三穂大明神 社領百六石 神主 太田図書

祭神 三穂津姫 三穂津彦

山水 美髯洲以其有美髯廟名之一曰三穂洲以洲多三髯松一曰三尾洲

以洲尾岐爲三北與興津抱海成灣是爲清水港距港十餘町

祭禮正月十六日也此日神前へ近郷より馬を率来りて

有村是爲宮方村村盡有廟是爲美髮廟東數町有老松一株

神前をめくらせ[illegible]九月[illegible]近郷馬

是爲羽衣松即雜曲所載天女曬羽衣於松枝漁父伯梁獲之

○前にまうけ病馬を拂ふ[illegible]

是也松下有碑故府尹牧成傑所樹徧洲皆松林沙清石細松間

此地は駿馬[illegible]正月十六日[illegible]

多癸丹蕈往往有拳大者香味無比又有異樹生潮水中高五六尺

の邦[illegible]大谷[illegible]の間に五穀[illegible]

季夏開黃花狀如黃蜀葵土人謂之濵木瓜

大根[illegible]是[illegible]の一[illegible]

[illegible]の満[illegible]

美髮廟在美髮洲其神大巳貴尊廟庭有枯樟

其根化石而旁生芽蘗廟田百六石廟官太田氏

此地は[illegible]村の方より南沖の方[illegible]

一里三丁余幅[illegible]丁余[illegible]

濱[illegible]村 鴨村 折戸村より[illegible]道

一里余行て[illegible]の[illegible]道[illegible]

清水湊[illegible]

[illegible]出[illegible]右[illegible]の前[illegible]

社へ十町余行り 神木楠 羽衣松

杼三穂大明神の社[illegible]有度郡三穂浦[illegible]三穂津

姫神三穂津彦神二柱[illegible]出雲国三穂の[illegible]御神

縁の始として[illegible]三保の浦[illegible]三

穂の御[illegible]三穂津とは大巳尊命の[illegible]

尊の[illegible]大巳尊命と大物[illegible]尊

の中津国[illegible]天降[illegible]霊尊大物主神[illegible]

の[illegible]若[illegible]神[illegible]

[illegible]心[illegible]三保津姫[illegible]

日按破田とハ大巳貴命出雲に[illegible]五十田[illegible]田の[illegible]

羽車磯田社といへるにや是

或書
慶長十七年
正月三日駿府
大御所五百石三保
領へ寄附長九
月至那
御侍大井川下
小松石花山辺の
浦より渡海
三保領へ
渡府行西国見
宮川右三五郎入
三保へ寄附金弁
九反半二寸七尺
え入札御朱印
余五弐百文余
比浦にて御寄附
十年ニ至り
ヌ行り九
今ハ十三丁四
ニアリ寛保マテ
年十年ナリ

いまはありきて妻とせしより後しくは百方の神衆もとめて
ゆゑ皇孫のまへに参りて海神も又まさに大物主の神迎へ
妻とさせし給親に原くむ給ひ皇孫の後見と成らせたまひ
の化しければ出雲大社にて御向の社となして三保津姫の御
神也又婦好逑の親愛ありける是へ此浦に相生の松に
神木とすと今此社地に相生の松何の又良縁を祈る
浦の松の名にも又縁もよる俗のいふと此也へたるも
いにしへ日本武尊の東征の御時此社に幣帛なさけ給ふ
後の御代と覚えし官幣使ありし御祭なりし官
式の御社にて神名帳にも廬原郡御穂神社とは此御
社なり此浦にて有渡廬原二郡に跨りて古への駅館の

地さへ廬原郡にありしを後の世郡境変革ありて今は社地
の小三保村貝島を郡境として社地は有渡郡の中とは
なれり三保村の漢字をみれば廬原郡なり類聚国史
本朝には廬原郡御穂神社二座とさるより古史にもみゆ
廬原郡にさなるより其外光仁天皇文徳天皇陽成天皇
の御時神位を授ありし事古記古史にも見えたるを今
朝官方の御社にして年中の祭祀洋として霊徳盛なり
国家をまもりたまふ所に於て御例祭事なり
此地は余末なる松の老木常千株と云事をさしむ多き松とて
此の辺の海岸に本社の西おより斗り大なる松なり余は皆若木
なく疾風を凌ぎて常如くの枝ふしく翠の色深くあり 本社の色とみ

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

[illegible]楠の大樹[illegible]社の後[illegible]国[illegible]の大木社の前[illegible]右
[illegible]楠[illegible]中[illegible]て[illegible]方へ[illegible]て[illegible]枝[illegible]
[illegible]葉[illegible]出[illegible]方の[illegible]
[illegible]社[illegible]　神君[illegible]造営[illegible]て[illegible]結構[illegible]て[illegible]寛文年
中[illegible]て[illegible]南向[illegible]二[illegible]四方[illegible]成[illegible]社[illegible]
[illegible]軒殿[illegible]御[illegible]
[illegible]社右[illegible]牛頭天皇の宮[illegible]是[illegible]
[illegible]宮[illegible]軒殿[illegible]鐘[illegible]清[illegible]焼[illegible]の後
此所へ入[illegible]　其銘曰

従二位行内記源姓榊原氏照久所鋳幸鐘[illegible]納于
駿河國御穂神社於是請氏部御法印道春作之銘

銘曰

駿河之國　御穂之郡　盧原古郡　有渡接濵
靈松雖舊　羽衣如新　銀涛萬項　瑞蘿千春
愛命鳧氏　以幹鴻鈞　追何可豪蝨　鳴者作鱗
撞聲必應　聲響皆直　唯願神聽　乃求祥臻
陰陽不測　幽明是均　苟存敬信　德覃黎氏

正保二年乙酉二月吉日

[illegible]社の[illegible]南へ[illegible]行[illegible]の砂[illegible]登[illegible]て見れ[illegible]前
[illegible]大洋[illegible]て伊豆の国の眺望[illegible]後[illegible]見[illegible]松の林[illegible]の
色[illegible]目の[illegible]風[illegible]音[illegible]波[illegible]似[illegible]国[illegible]入[illegible]清
[illegible]松の[illegible]と疑[illegible]御[illegible]古歌[illegible]

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

新古今集　　中務卿親王

清見潟秋漕出く三保の崎松のうへ行月見ぬの名
け誰をかしらむ

三保の崎あま出てみれは田子の浦松のうへ行海士の釣舟

右の如く富士見るる楼前に蒲原薩埵山奥津三河の山見えわたりて
大内山久能を始め清水の湊波々見えて耕雲庵言継卿も述られし
濱邊なる所は石の小社有り羽衣の松の跡也古へは此より
見ゆ六丁とさ見る所ありしか今は次第に移りて
古への羽衣の松と波に流れしまゝ今の所に移せし
とぞ社と羽衣にて今に遺るとて石の社とかや
せし所神主の司る縁ありて東へ三丁程行て三保村に伯梁
の松とて二本並ひ立かくもの過茅行て三穂の田に堤濱
松の前を過ぎて山本村雨釜崎貝島折戸と云
七村行て漢文の住家なり千余歩あかるし此浦は東は
と云ふ本村にて六月菖蒲花代若く本様に似たり本の六ヶさ
名六人有りて奇花有る七地暖かにして三月の初より菊花代
出浪四季に咲木松露有り食塩魚類を採り浦有り
いせへ年納の和歌云のうへ人を此浦に滑く集りて歌よみ
あたりし傳へ侍れと寛文中の年の国様に社頭の山の絶ゆ
とも侍り侍し後みけりし紀事のみ草根集の歌に

船人をいやぬさ手向れ風早に三保の磯山花さかりかと
浦の神に風祭りして花の咲散れとの手向なし

第廿七 風土の三保の浦を浦人さきく浦とも
万葉集 清見潟富士の煙や沖つ波 多和流 仲興
夫木集 夕日氣入海ゆき沖津風 多和流 三保の浦波

林羅山羽衣
松碑文アリ
社ヨリ海岸
間松多シ
内緒ニ松多
アリ

○林氏○神社考ニ三保の松原は駿河の国清見潟の東方駿郡の海辺
わたる富士山の麓の東洋海辺の久能山を西のかたに望む岡
る浦辺の景を行く松の林の華の多き撰とも言ふべし
とんや凡境を離れ俗を離る天人降臨の遊びいまも別れ行く
古考傳ニいはく昔神女天降りて羽衣を松の枝に掛て
そしし老獻きに漁人伯梁と云ふ者ありて
そのあるやいかゝ問ふに漁人の機の
中の衣に似たるものかな神女あれをもとめ
神女天降りしとすれば羽衣脱しなくば神女の海人の
夫婦となりて子孫多く羽衣伝りて雲の家に
なりて甚漁人と登りて他人とまじらず西行法師の
記行ありて問ふに今訪ふものあるとあるもかゝる吳国
問きもの人はもの事なりの事伊勢の神宮
あるといふことを所なきなる国にあるとき形なりの天
人の華を求めて東遊び後河の翁といふ曲を此所にて
天女の舞ありしとう 延喜氏の翁伝へ後の世に海を
ゆく人ありしとも 能因法師のうた
うゆく天の羽衣海人の玉ものもとめ神のまもりと
是い或説ニ浦資業 伊賀守ニ作る 能因法師ものか

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

○村松村ニ有
三山 [illegible]
村松有三山
[illegible]
○村松ニ有方[illegible]
[illegible]
十月十五日[illegible]

清水
御蔵[illegible]
御蔵地
千六百[illegible]余
御蔵六棟
[illegible]
[illegible]

の三角明神に来遊ありて舞ありしより見るらん
世に志らぬ事を見せんとや天人の舞ありし三保の松原
羽衣薦彼のこと神家に伝へ[illegible]羽衣羽車 和訓あるして
羽車[illegible]東都[illegible]羽車磯田の社と[illegible]して大明
神の離宮のよし古書にも見えたり大己貴の神の羽
車なる[illegible]書を読[illegible]薦車社にも見えたり
磯田と云ふ十団狭（サ）の小汀（スナハテ）といふ所ありて大己貴神の降
まし所なり此所は大神の霊跡なれば出雲同名なるべし
三穂の御前十団さるは此二神の車跡なる所なるべし
き事も古史にも見えたり
今此地羽衣の松と号す或人に見る

海原のまくこちらや波の[illegible]のめみもし神代の天の羽衣

○風早浦　風早の三保の浦とも風早浦ともいへり三保の
浦の異名なるべし　補後国に同名有り

小夜ちどり波やきちらん風早の浦のはまきに[illegible]

○清水湊　有渡郡ナリ　自府城二里廿丁余
里　[illegible]

清水の里は両国一の湊にして町並いて繁栄なる所なり清水町の東北御蔵十八戸前ありて駿府の御代官所也駿府町奉行組の与力と云ふ[illegible]清水町にて町奉行の支配所なり　古城　江尻へ出る道の[illegible]永禄十三年武田信玄馬場美濃守に命じて同国東梶原海賊清水の湊に[illegible]世に[illegible]取り

清水港在府東三里港内極寛饒鮮族魚税歳出七十五金港頭六百余戸多船舶永禄年信玄馬場信房ニ命シ城港頭命曰[illegible]城今谷巷是也是時北条氏精海戦其水軍将遠山富永来屢来掠戦艦故築城戍兵以為防備烈祖再有駿河毀城以為坊巷港西有烈祖行殿阯及船廠阯港南有粟府享保十八年所建常儲

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

栗一萬石以倫未府城寺之甲

慶長十一年三月小江戸城十郭修復慶長
四年上方ヨリ拝女ヲ下ス
慶長十七年三月三日駿府ニ於テ清水ノ男女共死ス

清水行殿慶長十年所造元和四年頼宣生母正木氏檀為蓮永寺殿阿五十餘ヲ女高
處有金毘羅祠即烈祖所居也

○草薙社　有渡山十り　府城東一里余街道吉田村東金ノ段ト云所
南ノ方ニ標アリ是より八十程入　標文草薙大明神ト有
延喜帳　大社

祭神　天照大神宮　社領　五十石
日本武尊　神職　森集人正

草薙山ノ麓　池田　谷田　草薙ヤ　丘峯四連りて渡ル所ニ
草薙廟在鳥度山中其神日本武尊有巨樟周回十三丈
杖村　妙音寺山ノ麓ニ有渡山ノ南北三里ニ亦有
廟北頭家郎埋夷賊頭顱廟田五十石廟官森氏
此社ハ日本武尊ノ草薙ノ法座ノ地ト云ヒ又
庵原郡庵原郡草薙ノ社ノ二所ト云ヒ日
本武尊ノ車輦ヲ式帳ノ官社ニ列シ庵原郡ニ今ノ僧
社ヲ祭リテ官幣ヲ奉ル　有渡郡ニ靈山ト山梨ノ法ヲ今猶
御宋ヲ設ケ神剣ヲ日本武尊東征ノ御時此山
野火ノ難ニ遭ヒ給フ鳥頭ノ篠山ヲ登リ軍陣ヲ
解ク所ニ三度ノ変ヲ生ス

[illegible]神社代思通の端山よりくだりて[illegible]十握劍[illegible]
[illegible]の第山より出[illegible]尊草薙の劍の靈德[illegible]
[illegible]代猶[illegible]此山に登りて靈劍を[illegible]解[illegible]天照大神
[illegible]此社に天照大神と武尊を祭[illegible]
○富士郡[illegible]の草薙の[illegible]社九[illegible]の[illegible]社なりて黄神の[illegible]の[illegible]
[illegible]社[illegible]と九百[illegible]の社[illegible]庵原郡の[illegible]
草薙の神社と[illegible]と神名帳[illegible]
[illegible]の[illegible]嬢[illegible]の所[illegible]
○[illegible]細川[illegible]旨軍[illegible]北所[illegible]
尊[illegible]世の[illegible]
○社[illegible]の大[illegible]
[illegible]細の[illegible]二[illegible]四方[illegible]

[illegible]の[illegible]校葉[illegible]根の[illegible]
○街道の南の山より[illegible]
武尊賊徒の[illegible]

或書慶長十五正月十五日駿府に吉川安盛病死

○吉川八幡廟在吉川村廟前石表文化丙寅歲品川国城主吉川經賢所建○吉川經義以寿永二年封鳥渡吉香後改吉香曰吉川辛子友兼立正治二年誅牧原氏被傷辛子經兼立後播磨今岩国城主經禮其後也

小鹿原 小廟壹りモ云 有渡山ヨリ自府城東一里ニアリ

有渡山のうち[illegible]民家[illegible]東[illegible]
鳥度山在幡山東蜿蜒數里山多松葦其東有美髮方例
連[illegible]久[illegible]此[illegible]
蘿蔔の[illegible]寺[illegible]平潛觀音山[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]東[illegible]遠[illegible]
行人と神や[illegible]

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

今川道

日吉東山吉星在山上今川氏時福嶋東居焉永禄十一年武田氏取之
軍兵山下直趣持舟城所過至鶏犬不免以故持舟城亦其
権謀也或云武田信玄客於駿府

○平澤 有渡山ナリ小庵あり自府城東一里余

布袋山 平澤寺 平沢寺真言宗在鳳凰山 居焉
中多獅蹴寺田十石三五石

観音堂

北所は獅蹴の名所なり一説村ノ西北の山麓に富士大明
宮あり西の方に駿河国の名所なり夫ようこそ南い前渡寺田の渡上過ぎ西
井河とぞ西の方なり夫ようこそ訪ひて観音堂なり

念正寺 帯堂 観音堂 猫嶺寺より西尺村へ入道のかもとも
府迫十四番の札所 寺号みれども教寺なるべし念仏寺なり人多し牧山後の也

○池田 有渡郡ナリ自府城一里

寺田六石三斗

世尊寺 青葉山 本覚寺 法花宗 開基 日位上人
天正年中開基門人の子日蓮門人の子日蓮門人の子日位上人
駿国雑記ノ仏法海中出記の係和尚之を天正九年之云

○一色村 有渡郡自府城一里余

小庵村
家集係次
小庵示
附もいろ丸小
庵大宗我
りふ山公兵書
とぬとりふるる
多へき

圓福寺 日応寺桜寺末 禅宗 開代北条氏

尊氏公の御祈願所なり因所は畑のなりの中利中し庵不
世尊寺の年号天正なりと云ふ年号なり和尚
城ノ内 五輪あり 九右ヶ小墓二ツ 双紙中寺の跡なり
法号 雲光院殿雲山永見大居士 法号 物の中の跡の
紙ノ内 紙成紙 紙ノ内 紙ノ内 紙ノ内 紙ノ内
天文年中中井正雪 傳ふ 楠 菊の紋
付 家紋 右 五輪の側 大木の松二本あり 根へ堀
大谷村 有渡郡
大正寺 曹洞宗
寺院三拾石
岩淵 欠塚
竹内氏 駿府
大谷村 百石
為ノ御出大膳
る年 御出
御立書 出城
有しを 御殿位

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

寺は高の内一將
呉如ことは
卿老僧正公尾
成元進上申さ之
菜宝と荒沙
成沙し之先巳
と相て中左
堂是派閥ある
中中は坊主八丑
子と嘗事と
承りと即郭
き成る所後
駿河 即目之人
此給称山
殊勝成事也
卿ち威衛付
也

云墓ハ尊氏公の廟所なりといふハ大なる誤り也尊
氏公の嫡男竹君の墳墓なり
太平記十元弘三年足利尊氏官軍に属し京都より六波羅
没落の道遠けれは師御前は家来と共に鎌倉よりは為に其
沙汰なし期する所ハ同五月二日夜半ニ足利殿の二男千寿王殿
大蔵の谷を落て行方不知成給ひける所に鎌倉中の騒動
不斜京都の事心元なしとて長崎勘解由左衛門入道と諏訪木工左
衛門入道と為使として登られける所に六波羅の早馬駿河の
高橋にて行逢ひける足利殿ハ敵に成り
ましけれは猶ハ鎌倉の事とも籌ありて為使両人宮
東へ愛けるに愛ニ二氏の長男竹君殿ハ伊豆の御山に

忍居したるか伯父宰相法印良遍児同宿十三人山伏姿に
成て潜ニ上洛しけるか浮島原にて彼為使に行合ひ
けり諏訪長崎生捕せんと思ふ所宰相法印無是非馬
上にて腹切て道の傍にぞ臥たりける長崎是をも物の
数ならず人ハ竹君殿を潜ニ指殺ぞ奉り
同宿十三人をも頸を刎て浮島か原ニ懸てぞ通りける 略
此所の墓ハ竹君殿の墓なるべし

○茶臼山古塁 在麻機吉山東武田氏時置戍兵去

○御脇水井 横内町内北側ニアリ 東照宮御用水ト云

○清水観音堂 有浅間 自府城十八丁 街道ノ北ノ方ナリ
山水 麻機吉山在府城東北西曰清水山東曰愛宕山而其實一也
観音堂 六間四面 山上ニ毘沙門堂 閻魔堂 結神等あり
山多料樹其石青圓而砌
別当 音羽山清水寺 真言宗 御朱印十石
今清水ヨリ愛宕山迄一ノ岳ヲ八ツ山ト云
清水寺真言 在城東麻機吉山相傳 烈祖在駿城屢遊此寺

国立国会図書館　駿河国志 8巻 特1000-8
ガラス使用

清水寺は府城の北方にあり此の所に元長寺
音山と信じて山城国音羽山と称す
又て八幡山と相対す一峯の名山
音羽山の麓に蔵宿山あり
此山清水元長寺と云へり元長寺裏の寺なり此山の
西の方禁制小海道あり古へ海道なり南の流の禁制今の
街道駅路なり

○無量寺　叢僧寺なり清水寺の隣

清水の山清水寺の西北の方に山甲別の山と見る

御脇水在横内町北側烈祖御用水と云

○銭局在宮谷村明暦二年鋳覓永通宝二百萬緡於此銭似大佛銭而稍軽今銭座打と云

清水の山清水寺の禁なり

○蓮長院　禅宗　観音堂あり府辺四番札所

坂内村の方四方

常長寺の風呂あり

○山脇長元院　天長山　曹洞宗　御朱印　二十石

但山林

元長寺の山の禁なり観音堂あり府辺三番の札所

里人とも呼て名谷の寺と称す

元長寺

○負松山蓮永寺　法花宗　開基　日持上人　六老僧中

坂内十丁四方

御朱印　寺田二無之除地なり

長元院の山形古へ高所なり九里山松林と云所なり

紀伊頭宜郷御母公の山満方渡と称す

門前寺領百石寄附なり

開祖の後寺領と形山林斗なり本寺と云所なり

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

芳牌安置ス
仰付
右御宿西京之
正月廿日長谷
院西七々帝
一同焼失
様従孫右衛門
御陣陣同異
右如く帝
焼失て後
先陣て清玉
本堂なりて
みえし
隠一尺三寸五
高一尺二寸
御枕屏風双
南都写斎阿
其外十六幅玉
御装束御條
同辞紙
御代御筆存
安心西伝
御位牌一て
綴合高手前後
梅寿院定七宝庵
本前後寺領村

物なま書院にて　神君御他界後御座の間とも伝へ移し　ナマリ御殿
七月以前から長谷川墨絵にして法上院といさけて十枯
安なり御座遠棚なとに昔の作なる御位牌を建置御枕屏風
表裏金に彩色絵小屏風なり手本雪舟押絵の屏風雑人の舎
屏風表なけ寺へわされまつり方丈に大久保桐模様三枚続の金
御城御殿を引き移りせて大形に其形り御なみえて奥
大なる　蒔神変と作り迎ひの回縁の蒔塔　什物是く御
其外に於て御あり見し　表門に制札有　寛永年中安藤作之
御朱印の写のなし云々
養珠院殿お万の方御位牌所アリ

蓮永寺日蓮宗在麻機吉山元和年創宣生母正木氏所建

○愛宕山　古昔の光院末　別当福寿院　真言宗山伏　十丁四方
音羽山の北の山続き北の尾なり皆ヶ谷村より登る
山上迄坂道六丁許り左右は海あり平沢山小鹿東々は清見寺
巴川にあり三保富士の眺め絶景なり東の麓東海道なり
清水寺は北山続て北余町許つゝき西は山なり北の麓なり
皆ヶ谷村といふ小御街道なり昔の東海道の街道なり

北脇吉塁在巴水南今川氏時北脇光定所居村側名大門處城門趾也

国立国会図書館　駿河国志 8巻 特1000-8
ガラス使用

# 駿河國志巻第六目録

國府之東二


足洗村不動　國分寺
長谷寺　御藥園
熊野社　大澤寺
九山寺　長安寺
臨濟寺　聖樂寺
光明寺　淺畑之池
麻機山　龍丸山
瀬名壘跡　梶原山龍泉寺
梶原山　大内觀世音


国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

長沼壘跡
逡梁川
庵原山霧壘跡
訝奴義濵
磯崎
角田川
閑屋里
清見磯
巨鼇山清見寺
奥津驛
奥津神社

江尻驛
庵原川
盤城山
盧前
真土山
袖師浦
清見嵐
清見川
清見關要障
奥津濵
不捨院

岫崎
薩埵山砦跡
矢田壘跡
入江庄合戦

薩埵山
上野城跡
城丹寺古城跡
八幡平 奥津河原陣場

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

駿河國志巻第六

國府之東二

○足洗村不動高雄之文覺守本尊ト云有渡郡ナリ

別當大高山明王院禪宗朗舟僧正開基臨済寺末

木花開耶姫命沓ヶ谷ト云ヒ所伝ヲ所伝沓ヶ谷ト云ヒ所伝

○國分寺安語郡宮内村寺領八石安東村ニアリ府城の東ハの

竟地山金剛院第三十三号東小平字

如意ナリ第師の像安置ス古ハ域アリテ清ラカ大佛ホ

ハ古ハ寺像の陸貫ヲ清ラ

彼像侍帰シテ洗地の玉ホ

ホ佛ナリ此ニ安家村ト号ス西ハ安西村トアリ古ハ安信

川ヲ中ニ流レ所の名ナリ

○長谷寺　寺領四石　國分寺の隣にあり　古の尼寺なるべし
本尊行基作観音神供地神[illegible]
[illegible]

○佛藥菌　長谷寺の傍なり　[illegible]

○熊野社　安倍郡安東村にあり　社領三石[illegible]余
祭神　伊特諾尊　早玉緒尊　社地[illegible]
[illegible]

此社より地除の内に安東村に[illegible]

○正覺山長安寺　安倍郡　齊家宝叢寺末小寺なり
[illegible]

富士見寺　[illegible]

○丸山寺　安倍郡　秋月山福田寺と云
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の筆者女筆なりおあちやの寺の筆跡と云伝ふ

なくれの井今と若水湧てつゝる山の井あり[illegible]

いさきよう富永の氏信吉某なる世寺を建て[illegible]

住僧の[illegible]伝ふ

なくれの井あり[illegible]

云の[illegible]

大岩村 安倍郡

○湯光山 大澤寺 寺領 五石 臨済寺末 義元建立也 臨済寺ト 隱居所ナリ

永禄三庚申年五月十九日今川義元尾州鳴海桶狭間ニ敗死の後死骸[illegible]

[illegible]

[illegible]

本尊の右ニ開山の像左ハ義元の像[illegible]東芳太刀佩ル形なり

天澤寺無住故臨済寺ニ今ハ移ス

○大龍山臨濟寺 妙心寺派 安倍郡大岩村 後禁裏勅願所 寺領 百石

今川氏輝建立ス 護國禪師開基也 入口ニ[illegible]の蘇鉄あり

右ハ開山御影 後奈良院御影

左ハ臨濟寺殿開山玄公大禪定門 今川氏輝

恵林院殿機山玄公大居士 武田信玄 天澤寺殿秀峯招大居士 今川義元

法泉院殿泰山安公大居士 武田勝頼

大龍院殿一源心公大禪定門 中村式部少輔

雪齋長老姓盧原氏住臨濟寺深沈有機略長於軍略初義元為僧與長老同

尤上檀ニ御仕々御位牌あり 神君の御宮とあり 帥相親善

氏輝卒義元以母弟襲封義元異母兄良眞亦為僧在花倉通照光寺自

神君御幼年の時今川家ハ[illegible]質[illegible]住の[illegible]

長富嗣屬具徒謀及国人洶洶長老決策贊義元擊而殺之義元既

與織田氏構兵長老入為謀主出為將帥義元倚伏焉天文十八年長老將

雪齋長老之和三国會盟富士善徒寺以義元女女晴信子義信晴信長女氏康子氏政氏康女女義元子氏眞由是終義元世三国交睦山本晴幸見信玄信玄問以駿事曰駿用雪齋政明

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

名動弘法大師の作也山谷凡り嶽りつゝきて元四れとも
もうの平道なり

○淹畑之池　大沼なり　巡り三里ばかりとも云　自府行程　二里余
幅四十丁余長十八丁余

七郷　東村　北村　羽高村　有永村　南村　池ヶ谷村　平ヶ谷村
麻機池在麻機山東周匝里餘水淺而多魚池尾東流爲巴水
右七村ノ内沼の内ハ巴川也

投網ハ鮒鱣雑喉鯉ハ沼ヶ谷村にて産諸の水禽并に藕種
沼の陰に市殿山と云山あり山の奥に漆山乃動あり
長寿寺　鼻ヤ　この所に昔に国長寺ありしと云
西海道にて長寿寺所ありし鬼子母と号し沼の南
あり　此沼ハ　ぎき　板の長さ　天竺中天竺　諸伝もけて　鼻　球もあり　孔　此辺

池ノ猪沼上村
張弦沼神社

志川機の山徳法寺に安置　聖寺大悲の光り有永の松ら
此所に揚梅の名物大木あり

○竹谷山光明寺　黄檗派　決牛和尚の弟子誌堂和尚墓　和尚の弟子誌堂和尚墓

民附録
可冀也
齋一日
国亦拘
其身係
重如此
為乎呂
嘗作格
曰平生
人満大地
鉄一圍
拘束無
土三更
日墨湯

此記
程況梅ヶ谷村所授
但梅邦し四月に花山天王一四月と
御蔵に嘱し全荷陰丁全し遠国
住山なし邦衆を漆人天正十三年
附なし四月清山年蔵四月右為代
ヤ丸ヶ丸

日金鹿草所文庫　第吉田四月
唐業所双帝　五陵四月
牛一切　長天寺上下
四山四列入

風呂長板天日暴乾　風呂
梅小成
所上梅
西湖梅　花房仁八
庭前ヶ丸

所授　天正十年
所授　天正九年
所授　天正十年
金所尾梅庭子一対
所授　天正九年
所授　天正十年
金所庭風　板地
日　日
日　日
薬業画地所
地子方芋
一双
一双
一双
一双

民附霸業可冀也然雲齋一日而亡国亦將危矣其身係輕重如此雲齋名孚号大原嘗作投機倡曰平生底不受人瞞大地都盧鈌一團壁破將未無可土三更果日墨漫々

兵攻織田信廣於安祥城生獲之乃交贖還　烈祖於我二十三年義元與
神君結好　橋の
北條氏康氏康來攻義元請救於武田氏信玄自將與氏康戰長老建議
連和三国戰兵而退義元得專力於西方弘治元年閏十月十日寂義元震
悼　天子詔賜謚寶珠護国禪師後數年乃有桶狭之敗
臨濟寺臨濟宗在機山北有今川
義元雪齋長老肖像又有今川
氏運及中村一氏基賓館華渓半架山島其庭西湖梅一株烈祖所賜也
寺田百石

慈雲山聖樂寺　臨濟寺末　有泉村ニアリ
觀音堂　行基作　府四三拾三番札所
志川機の山神社　ニアリ　聖樂寺大悲の光り有泉の拠ら
けるを揚梅の名物と云ふ
○竹谷山光明寺　黄檗派　決牛和尚の弟子詩堂書画墓あり　尊八

名動弘法大師の作也　此山詩凡り獄ヲつくりたる人ハ
もうるを道なり

○滝畑之池　大沼なり　巡り三里　方ヶ所　自府行程　二里余
幅四丁余長十八丁余

池ノ端沼辺ニ弁財天社

七郷　東村　北村　羽高村　有泉村　南村　池ヶ谷村　平谷村
麻機池在麻機山東周匝里餘水浅而多魚池尾東流為巴水
右七村ノ内　此沼ノ内ヤ巴川ノ内ヤ　七ヶ村の内ヤ　其猶此郷ニ
投網ヲ以て鮒鱣雑喉等ヲ漁ス　沼ヤ川ヲ清ノ水禽并ニ蒲稲
ヲ植て恒の業とす　古ニ毎年平山の奥ヨリ流出ス　不動あり
沼の傍ニ御殿山と云山あり　御殿の跡ニ紀ヲ記ス
長寿　鼻ヤ　ニ所ヨリ　此ヲ国長寿ヲ仰ぐ　長寿沼の南
西海ヲ　ヤ　ヲ　所ヨリ　鬼ヲ　ヲ　年ヲ　熟　数
ヲ　沼ヲ　ヲ　板の長さ　天保中　年　鼻　弘ヲ　孔ヲ　遊
諸説ヲ　ヲ

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

自然形成

○麻機山　歌枕未勘る載く国府安部郡の山なり府城より一里あまり

麻機山在静山東北両山山谷松樹列生如馬鬣而往往有缺土人張羅山なり志津機山と峯連りて南より北へ横たはる山なり志津機山ならん

其處以捕鳥旦於麻山暮於機山蓋麻池鏡茨鯨池

遠人居故暮就食於麻池旦還插鯨池毎係松樹缺處而往来也

山多蜀椒

麻機郷七村なる天神の社あり七代の神代祭祀あり

池沼あり山の麓の村なり麻機郷のうち西村なり

神代祭祀あり東村の山の麓に天神岩とあり又於石と云高さ七尺ばかりの石あり唐洞の西にして中は空の洞なり

なり雷紀横ゆいさまの穴あり小石抜入れば於の音しき渝

引きあり又その側の牛石とて丈余の大石あり牛の卧する似せり又村の山麓より流落る水あり永ほとり

名物志あさはらとう用田一里許の池を又羽高村の池とふの村あり氏をきの村なり氏を敬成山と云

○龍爪山　庵原郡ちう府城より三里余府辺一名高山ちう　時雨霜山

龍爪山相傳昔者有龍遺三爪於山中距府里餘峠律摩天近府諸山

龍相模国の相模の社の山なり府城の西の方の山なり

奥頗傾山鏡白芍藥又異禽山脚岐出東南者曰静機山曰麻機山

曰西奈山而其北千山重沓多無名而絶高者牛素渠布在龍

雷雨雲霧の中に隠れ出でて雲雨を降す山なり

爪山西麓

神祠　毎年三月十七日祭禮あり鐵炮祭と号す近

生ずるに水烟立ちて谷深く林茂り甚寂寥の吟ずべきと

疑ふ又羽高村の

とて卒あり有永と云村なり村の池と云村なり村名付る歌

うや今池ヶ谷とちとけたる紀なり村名付る歌

ちんの後

志はきこのあさはら山井あり山の池いはくの風とうなりの書

平枕草

あさはら山あるこの山のあるこのは市代宮の御なり

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

仁の人賜る領地に放て國衙の人とあり　駿河國瀬谷川

弟うち平山を切り登山をうるやうに

○瀬谷壘　瀬谷は自府横内の川に付て下る流れ　縄手十丁ばかり
行揚土橋を渡り向へ出て行なるなれば瀬谷村なり　壘は木詳

今川の内萩野帯刀居る　兼好法師の侍童命寿丸の母の浦や命寿丸の母萩野庄兵衛尉
やうに其なる左市ばかりと其なる帯刀や。注後伝に三郎なる者命寿丸と名乗る者と沸しあり
三十丁ばかり自府一里

○瀬谷川村

○梶原山龍泉寺　庵原郡大内村のあり　瀬谷川を渡り鳥坂村あり　三里ばかり大内村なり

中内往山村長光寺未

曹洞宗　寺領　三石　法内十五町四方

梶原平三景時

此寺は源頼家卿の内正治二年。相州下官小城郡に搦へ防戦

安宅に備へ謀殺に企て甲斐源氏武田有義を取立んと謀りしに為に得ず因て上洛し院宣に給り義仲を誅
後河國に逃る清水冠へ言刻梶原父子到りて在国の武士
的に対て群集し退散せり景時小根逆彼家恨んで箭に

対て遮り戦ひ仍て蘆原小次郎　工藤八郎　三浦小次郎　飯田五郎　近
藤小次郎　景時孤崎より逆し合せ相模飯田五郎を取人討とられ又
吉香小次郎　渋川次郎　船越三郎　弟小次郎　梶原三郎　名倉
宗義十三年　五月名誉て攻戦し吉香小次郎を討れり其後六郎
宗国七郎宗宗八郎宗則九郎宗連等悪を重へ頼に訴へて
挑戦し勝負変し難し熟所に南国の武士競の集りて
遂に彼兄弟四人を討取ける　ければ宗村敗北して大内多波へ
迎退て嬉る源左衛門宗家　年三十九　同弟平次左衛尉宗高　年三十六
うしろの山に要害として相戦ひ南国の諸勢大内山に
取囲して攻れども宗村宗家宗高　彼山上に登りて自殺し
其首級陣中に入る　時に廿一日山中より捷し出し宗村　兵

子息二人と首伴類三十三人と貢状路頭に梟首せらるる由
廿三日駿河国の住人共遠倉ようの討伐の軍士遠倉ふと云者し
合戦し紀源氏奉仰 唐土朝倉於所前清申云云紀云

正治二年正月廿日 於駿河国討取 家村父子同家子所等事
芦原小次郎 公前進責し討取梶原平三景時 飯田五郎 年十七 討取二
人 京侍所小 吉香小次郎 討取三郎 景義 沼川次郎 討取梶原
平三家子四人 矢部平次郎 年十 討取 源左右馬頭 特平右
兵衛尉次郎三人 矢部小次郎 討取平三 二源中次郎 討取平三武云
新城三郎 討取 家子三人 大内小次郎 討取 同等一人 二度八年十度
六 討取梶原九郎 三三 京侍第日人々云云曰駿河国吉香小次郎第一勇士し
苦敵と云云時於遠彼男家前 市可有怖畏し由発言云云
以上東鑑し文なり

大内村梶原山龍泉寺は梶原氏開基し寺なり一族討滅て大内多城
所に移し討死し寺付て山の墨へ掛墨と云谷馬ふ墨ふ自害
なりと山号五輪の石塔あり源頼家卿より梶原氏の者を
使なりて自筆の書状賜し此寺永く梶原の願院なりし
定免なる山号山の筆とて今日一家の改名の巻物あり

正治二年 正月廿日

龍泉院殿 梶原平三景時 梶源公大居士

二男 湯源院殿梶原景高居士
六男 保源院殿梶原景国居士
八男 心源院殿梶原景則居士
鎌倉四郎大夫景村 梶權大夫景道

嫡男 光源院殿梶原景季居士
三男 照源院殿梶原景茂居士
七男 道源院殿梶原景宗居士
九男 妙源院殿梶原景連居士
鎌倉權五郎景改

国立国会図書館 駿河国志 8巻 特1000-8
ガラス使用

此山の名梶原の田畑と所々に果俗の言傳ふ事有り墨を食ふ
ことを笹と葉先矢筈の如くにて笹あり又牛の谷の牛石
鬢水石等の俗説繁多なり
長明道の記ある方記ある石仏堂あり同寺に高野の塚
あり人皆これは梶原の墓なりと言ふ道の例ともなるべきなり
元亨の頃顕基中納言の日記にみえたり年々月毎の夢のごとく
とあり詩の如くにて見文古き塚となりあり名とあり
言なり年を傳ふ中にあり梶原の家人と伝へ家を滅ぼし
さらに彼梶原を將軍二代の國政に武勇三畏の名徳深き
側らに人なりしも元亨いつなる事なるべきか
況して忽ち身死亡きなりまぼろしの如くなるべし

此都の内へ独立せり駿河國きく小中に所有てうれ
りとなりさは云ふて有りとと云ふ如くなり。價値の
法皇廢所へ物とむらせまし給ふの中にこそ所有て
海道に高法あり中絶 西行修行の法にて見海にふて
ちや君ちり此の所にて詠んのうを何ときも人と徒
ちりる所にて形の海にて下さう海のとの事をそ月及りとも
とあるまうてそるあるもあれあるの
あるれあるとそあるうれ所の洋の道のあるとも名とあるり
柳あるあるを今の江戸状の中の山方大門吉河と名津浦名多数絶系
徳舎の状態として他ものや今くまで此道東小街道とふ人吉河
と云ふ古い吉香とさしてを元亨年間あるの宮として梶原代宮

所とも中社あり長男の墓の塔とも成けるや今に古墓
余多と見しなん梶の墓なりとぞ谷の物とぞあるれ
なりけし

○梶原山とは尾山なりて四方絶見下る所なり東は富士越西川
花原山在府北里余頂但而無樹正治年花原景時父子為土兵
南は矢部茅薮平津西は前濱日本橋南目山 府城後同山
所殺處也右五輪石塔
小田原湯河原石川郡北山郡幾多の殘り奇峯や後河なて四方絶
見下る山は此山半腹なり右の山者五輪あり古の風俗
なるべし今は是なし物語して詩人の作なる是は同名勝
是は門は三寸地勸請志なりとて詩人なる是は同名勝
頼朝卿の後と馬頭觀音なり
右の五輪 苔むして文字なきなり此亂碑
右の五輪 苔むして文字なきなり此亂碑

用ひく碑とて碑年号なし 延久五年十月日
と見ゆ延久の文字なり
延久以後三条院の年号なり
正治より百三十二年後前なり
延久五年十一月日

碑文なれど後光嚴院武家を義詮将軍
の外なり正治より百三十年後の年号なり
いたきてふしてとと彼五輪
を梶原景時の墓志なりとあるとなり見ゆ詩鹿寺と曲
録して右の如く物佛なるとなり

碑外の文字見えなし
年号なし
見ゆ碑志なり

狐崎之砦　今の大内村桃弟山の麓なり　昔時の海道の府中の入口の狐崎と云ふ所なり

○大内観音　[illegible]　鷲峯山霊山寺　真言宗　寺領十石八斗　府城より行程二里　[illegible]　町右ヱ門の名に拾三曲りをとり[illegible]

誌曰寺の東の坂下より上りて八丁右坂の中ほどより

仁王門額　鷲峯山霊山寺　高永筆　鐘楼　護摩堂

本堂額　悲邪海　高永筆　行基并作　千手観音　七観音の一体なり

後列廿三番　[illegible]　三番之札所

府辺六番目

[illegible]

如蓮の後方なる丈あり　覓もて庫裏へ水[illegible]

観音堂後見あげ寺[illegible]

の奇景なり

又34

永禄十年此之辺[illegible]

也[illegible]

小芝[illegible]

小芝道[illegible]

一天正十九年春[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]城の跡を有て新城九中先へしんハ信云永禄年ハ元亀ト改ル年
[illegible]ハ元熊山記を信中ヲ近之博山ニ設もたる此江尻山芝ノ博ニて
[illegible]山芝博水門より東ニ東七日市場へ東南ニ新城
[illegible]ハ元熊の海ノ[illegible]を新城村へ出久熊山へ有信云久熊山
[illegible]ハ[illegible]ニ及入ること

一新城と中古考年ハ[illegible]元今の[illegible]川の内東と言ハ[illegible]
[illegible]ハ五年三次[illegible]中ニ別府の[illegible]ハ[illegible]の[illegible]を新城と[illegible]
[illegible]村[illegible]を[illegible]橋を[illegible]
[illegible]村へ三丁計ニ[illegible]
入久熊御[illegible]ハ元和二年ニ[illegible]元年迄[illegible]

一今川範国より氏真迄十代ハ時ハ九代の間ハ七日市場の近所海新館長邪用地アリ
[illegible]江尻[illegible]新橋云ハ誤ル七日市場ハ[illegible]ハ[illegible]ハ今川家
代ニ[illegible]より入新荷物出入ニ[illegible]ハ[illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
休[illegible]ハ[illegible]七日市場[illegible]ハ[illegible]
北[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
甲[illegible]通ル故[illegible]元ストル云

慶長十八年六月十五日駿府ニ[illegible]三ツ山より[illegible]ノ川ニ
[illegible]ノ下より[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ下ハ[illegible]ノ[illegible]ト[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

○長沼墨　自府一里　今の海道なり

茗の北方に有沼南に又有沼長者屋敷ありしと所あり

○江尻驛　橋より東八庵原郡橋より西八有渡郡なり自府三里

江尻沢在府東三里戸數八百余煙巴水絶沢東流有橋曰兒子橋

駅の裏に古城跡あり永禄十三年に馬場美濃守縄張山城と市を

長二十一丈　郡亭北有古墨穴山梅雪所居

○江浄寺浄土宗在江尻驛有岡崎信康墓寺記曰

信康侍女柳原氏葬遺髮此寺寺田十五石

江尻浦　波逆　訳に江尻の浦波ちかく不見海して行き清水なる

○梅谷　江尻北の山方に有り三里　梅谷の名に中間と云山里あり是に今川氏執政亭と

波の見渡せ　もちろん第一清月

湖の見渡せ

○東海道の日向谷を通ずるなり附記

改東海道慶長七年九月十二日畔柳寿覺

江尻橋　改作之

○梅溪在帆山東古者多梅樹今川氏營別館於此以爲遊息之處所賦詩歌藏于眞珠院今亡

○梅溪　浪のうへにたちうかれ出る月の影

氏親

○逢清川　江尻の東江清水と云

○帆柱山　巴水北二町

其山松林

一日月日夜東風江尻ヲつたゑ西東本宿と

並木清水屋敷の門繁千本松おさ

海舟陶美濃守殿伊豆氏信州大伝古紀四郎殿

○凡士山の晩雪天下第一と称するもの駿豆有度数古歌

より富士と三穂と又る最後東海道清水ヲ

駿豆　古歌に八ヶ所村へ

一道整然成
際自麓迄
頂連望如
柱駢山半
霊山寺住
眺也

[illegible]

人心如織さて茂中なる道清川と流さらに西し
梅の歌枕筑所四清川ホ入所されやと道清川なるべし
よてさるなるべし

又府の安西の方なる市中を流る小川あり是道清川と云
[illegible]
[illegible]
[illegible]

名勝志 奥津川色の海浜をよ

○許奴美濱

○風穴在山初の村の中生風不可入其傍有小潭曰彈正潭相傳壽永年平族彈正色盛者來住焉潭多鰍 今ニ土中古瓦出

庵原川口の海浜にあり人云奥津宮の小峯山あり今古俗こぬうみやいまこぬうみのようなれるなるべし

あのめくしとこぬみの濱の中海 松の清れなる紀あり意味なるべし

岩城山城くこぬみの濱 榊久しくあり清うしほれくあり

弱水元へ今ものこぬみの濱 雅歌代の濱のいりあらの

刺りてもこぬみの濱の沖津風なるほさきの松の陰くれ 定家

狗なるほむ岩城の山城 如くこぬみの濱あの月

ちきうるうるうる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

八郡の庄ありしとへ庵跡は四造の位なりしとて今の毛郡庄
草ヶ谷 弟村なりやと云所ありて丈夫流れ川なれば庵原
川といひなりもや井川と云云 清見関の西の方なるもやや
川を籠井川のあやまりなりとあり八角田川と云地尊氏
将軍薩埵山の合戦の時 此川の辺なる籠城なりしと
もいひやとて此所のものかなる人いふる赤みゆ
ゆゑ城しく庵なお角田川東ふ牡ゆと称んと云る方案集
三井基の寄附ありしなれ四の寄附なりとも又京拾貫門
郷の地名なりとあるとも見えず是此所の角田川城跡し
るもとも今羽戸井川とあるい昔の角田川なりと村氏の
云云 清見寺のあ井ひとしあるの河原城わ一京のかくしけ

方ふ小川なりし 此井川の東濁沼のあなりしまたは海流ふい
添庵原の奥とやもや井山と云ふ山流れ云やいとま
横道なりやと云 五音相通ずれば 赤井山 城羽戸井山と 混
きりなる伝ふ 方案集 また ちり山城文家と海ふうふ山とと
ちりなりとなるべし

方案
赤井山ゆゑ城ゆきて庵原の角田川東ふ云ふ山と称ん 源家長
いはもうやや角田川東の横道なりと記れたるあ浦 義家成方
角田川せもう月むせもやのあるとの表なりとあるひ牡ゆ 芝法書
誰つゆ朝とゆゆて添せん角田川東の初雪の花ら 後成仁
我ひとゆ人目見ともやと称るふ角田川東の夕雪の月 定家
もうきのあとゆきなりて角田川こうて中山人とうひよて

今川十首
[illegible]
庵あり角田川の氷る比て[illegible]
拳白集ハ同ハ辺さあなる川あり[illegible]
[illegible]川と云て[illegible]葉年の姉[illegible]
翁[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
姉[illegible]
姉[illegible]
長嘯子
京極黄門
[illegible]

名勝志
風土記云自
焉波濱以東号
神師浦[illegible]
[illegible]乃連京
[illegible]
[illegible]

## ○神師浦

今年清水江尾の海[illegible]
後拾遺
[illegible]
[illegible]年の[illegible]
[illegible]
[illegible]

今布さらしてある石いつれの石もやはりのかる潮干
清遠くあらはれあやしの巖さ海くはかりあらせる石とも
波よりあらはれ見ゆるかの布さらしたる板の石と見えし
いほさきやまさる河原ふ日をかれぬ雲風の里る有やかの海
長明の歌を清見の名をよさらせ桜ふ吐歌武蔵の角田
川ちくの舟の同名国さらせ

名勝志 ○清見の岩屋
鹽国崎
浦川
清見八地名今
廢せ清見ち
有ちり

今清見のあるる日岩屋とて所ふ清見寺次奥津の有ふ
洞とて所あり此所ふ
清見深ふ岩屋の杜の物る月と雲れ出る山かけ
後嵯峨院歌

○清見の磯 雲のほとりるるべし

今川家集
岩越海清見の磯の いそ波れ秋の雲とやさそいさらん

○清見川
文古集
清見川出るみなとふ汐みてはせられて出る海の入海
石巻門方面

正和三年
後伏見天皇
久明親王ノ比
執權北条貞時

○巨敷亀山清見寺 庵原郡興津府ヨリ四里
興國寺臨濟宗一号清見寺古有清見關爲東道名刹有琉球具思王子宏墓宏慶長
十五年来朝途卒葬於此寺鐘正和三
年所鑄豊公之代小田原分遣織田信雄
寺領 二百石 臨濟家
圓莊山借此鐘以給其軍寺田三百三石
清見関あり 古東福寺の開山 聖一国師の父子国師の
名勝志
此関のあるる尓菴ふ法ひし住る人なる雲のひちとをとを
雲のあるるて清見寺と
琉球具思頭王子宏墓宏慶長十五年来朝途卒葬於此
禅院 大源和尚臨濟寺
寺鐘正和三年所鑄豊公之代小田原分遣織田信雄圓莊
山借此鐘以給其軍右券蔵
此山より眺望せる京色うる絵ものと乃ち亀かつ山

千穂の雪　三保茅巻の波　実に東海の奇観なり　三蘇
人を変ぜず　来りて此寺に登り　かりうつ　仰ぎ　とのあ
此寺の　詩もう

蒼松翠竹十例間　桂樹瓊宮鏡裏を
閑説　三山流海上　却看促清見寺前

右　茅屋年中　胡縣　丁好寛

山領連富嶽　千穂雪　日湧滄溟茅巻波

右　正徳来聘　平泉

韓使の詩あり　此寺に　寺前の京色あり　のき
うつ　出雲　尊氏将軍　此寺に　帰信
　亦　尊氏　中国　櫃　詩あり　尊氏の　彫像　盗得　とあり　此寺

瑞雲山　寺あり　観音の霊所なり　尊氏　その　登り
　　　

西三條大納言実澄卿の詠草

清見寺時雨て天下の奇絶なり馬上にてらさるる若い雪の妻

楫の敵ちりぬるの色に楫の音ふれ後ゆくものの色に十島の九十九島

うきを思ひ中ふ八潮に棹て一望の中のおきひなかしし戸机遊

京の都く白雲の外に梵宮を投ちく歸雁傳ちる心ちして

為詠一章に紀く聊早懷に述蓋し保疑う後の嘲を恥と云

清見寺朝夕なきあらし波れて紅葉ちあさき色うな

行ゆて風をらふ人の心うに清見う寺の名ゆ名をたん

兵馬飛塵満九衢　百花春過未曾蘇

莫言勝境無常主　萬里江山入戰圖

西都賓客白樂天

豊臣関白秀吉公之詠草

東夷征伐の事先天正十八年三月のもし先北條氏をうち滅

て駿河国清見寺ゆ入りて彼地の風景奇絶なる事を保

の松田なの海九月富士の拓北雪眼前の眺望海中ゆ出る裏あき

かつ庭前の芙蓉かくれの花色をかたらうなるなれ

加様なれ詠て又六日夫より東の夷征をうへ出ぬ

八月廿日ゆ又彼寺ゆ長逗留遊ぶ尚京ゆ大納言長先

禅刺の西宗伝ゆ九俗伝ゆ礼ゆ志感して書院

の受里ゆ古ちをへてさらに作ぬ他生ゆ先世の相なり

かつ知第して皮然国のかを

物をしあ生一首伝詠作ぬ

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

清見寺の[illegible]
[illegible]
又加の湖の眺望
[illegible]
加の長老の[illegible]
此時清見寺[illegible]
[illegible]
甲州の武田信玄駿州を侵[illegible]
[illegible]
今川氏真父祖の業を継駿遠を領[illegible]義元討死の後
敵離の[illegible]
桐冒疾[illegible]寅情忘慢[illegible]甚闇[illegible]
[illegible]

駿州[illegible]
[illegible]永禄十年極月[illegible]甲府を雷發[illegible]
[illegible]
七日[illegible]
自らも[illegible]
守忠[illegible]千五百余騎[illegible]
忠義長宗小倉内蔵丞真沢[illegible]
十八士有功の[illegible]
清見寺[illegible]
無[illegible]
拂て駿府を逃[illegible]

大輔氏則葛山備中守氏信ニ浦ヶ市義高兵武田信虎浪人の中
後列ヲ儲ラレシ事武田上野介信隆ヲ始トシテ内々信玄ヘ
内通セリ侍大將始合廿人心後変一同ニ評議後府ヲ引退ク
甲列方ニ走ル清山飛ニ帝ニ奉昌京ニ馳参氏勝中山男爵家ヲ
義小備上総介後号尾張守真田源左衛門尉忠幸同ニ弟右京亮幸連内藤
修理亮昌豊等三千五百余騎江尻の城ヲ焼拂ヘ押寄
右衛門佐谷慶岩山城ヲ攻ル大岩村臨済寺ニ籠テ放火
セ武真遂ニ波篠ニて遠列負川ヲ引退ク同十三日信玄の侍
萩原豊前守牧本武左衛ヲ召ス後府の館ヲ破レ一片の
煙ト焼拂ヘリ

○清見潟要障

十二安り紀

栖武天皇延暦二十年二月陸奥国の夷賊高丸ヲ若達石窟ヲ起テ国内清見冥海ヲ攻ル征夷大將軍坂上田村麿節刀ヲ賜テ進発ス清見冥海ヲ城トシ田村麿ヲ討破ラレ奥列ヲ逃退ク田村麿続テ奥列ヲ攻ル合戦
神楽岡ヲ云所ニ高丸ヲ討殺ス賊徒悪路王ヲ討平ケ奥列悉静謐ス帰洛ス又朱雀院天慶二年ニ平
將門冥東ヲ乱ル作ル為国内ヘ攻ル平国香ヲ殺テ一国
ヲ押領ス威漸ク東国ヲ振フ下野国ヲ攻国司ヲ追
上野国ヘ移ル上総下総武蔵相模ヲ従ヘテ下総国猫島郡
石井郷ヲ都城ヲ立テ栖武天皇五代の孫なれいそみなり
平新皇ト僭号ス或ハ下総国相馬郡ヲ城ヲ作ル云

因之天慶三年参議右衛門督藤原忠文征夷大將軍ト
ス其二人ハ副將軍ト東四国下向ス如ル二月朔日下野押
領使藤原秀郷常陸掾平貞盛等將門ヲ討亡ス四月忠
文等駿河国清見関ヲ固ル陣ヲ布テ
茲ニ洛京騒動ス
清見関横走関ハ古二所の要害ヤ清見関ハ奥津清見寺の
東ニ有リ今間里俗関と云則甚師なり横走の関ハ富士山
の東ニ後東郡須走の道甲州相州の間道なり（按須走ハスリバシリ走ル対ス横走の名欲）
朝野群載ニ天暦十年六月駿河国司の解ニ云尚國 西ハ
遠江国榛原郡ニ隣リ東ハ相模国足柄の関ニ接ス
四内清見横走の名ハ関帯ト云

（各務志 陶川 河原）

○奥津驛

奥津沢在府東四里戸數三百餘煙負山臨海多魚蝦駅家

東捍海隄長二千二百五十ヲ隄盡右津冬春架橋其秋撤之

府ノ東四里 奥津濵 川 河原 又浦ト云

（横山古墨在奥津驛北永徳十一年十二月信玄取横山城命穴山梅雪寺之梅雪来沈近廬原郡故江尻横山諸城並附之梅雪云）

（和名抄作息津 又奥津或沖津 ともかく奥津川ハ狩の東ニあり 風土記ニ奥津川或ハ浦田河と云）

十六夜日記

かくて川ぶね

○奥津の濵ハあらまて海人の塩やく

あま人の塩やき法とも仏我ハ

又やそうの法ヲ学ぶ我ハ

なきたの濵の方角の月

法華経

○奥津神社

奥津妖家社東奥津川の西西にあり宗像の社あり姉と大河の邊に
水徳の神社祭られ多神討境護護されて富士川を杉島水神
の社あり瀬織津姫と岡象女神あり安信川の井宮あり
天の真名井の伸あり市杵島姫湯津姫神祭られ今如見と云
波軍毋神井の宮山に祭りて毋齊軍護ともあり
大井川に大井明神の社あり是海と織津姫の命神祭られ奥津
川あり瀛津島姫の命神祭られ天の真名井より
紀氏の市神あり水徳の市神あり日の神紀の神とはこ
柱の市神あり伊紀傳に伝事と紀奥津島姫の命神祭
以て所の名と同じ奥津と云ふ面神習合神家あり宗像
弁才天と云女神の宮と云ふ奥津氏の牛王神あり今も

宗人宗人いや海ともに　瀛息奥訓同故通用

奥津の神祭られ

兼好法師

○奥津水其源三日西溪曰中溪曰小溪三溪合流經小嶋横山諸村至同村南入于海
有溪魚不甚大而軟美迴絶他産

○不捨院

宗長法師奥津不捨院に湖湯湯治のあり法師ものやうなる
宗長の歌に見へ侍り不捨院今いにしへの寺とも覚侍り
旅宿は捨院の暁に

宗長

ちぬけまと板の敷きたれ板すきみちぬけ角ものもきりうり

中御門殿古立回折り奥津之用湯々治落者へ文を出しうこ
さぬきぬもりうらうあて堀内の如きたのてに　そひやら海

清見寺

○小蒔距府五里奥津駅北元禄年松平信義始封焉有酒麗天神祠

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

名勝志
仙覚云駿河国ニ清見ノ関ト云中古文ニ見ル一号
昔軍陣の付下
ろ小屋なるべと
通りこき在に山
よりをらく大年
紀上所謂榊葉
とこそ山上九
ろてきく見別
又分住侍と云
あり迎世武
田氏出軍氏戦事
の地も此山路
あり

○油岐（リキサキ）

波の寄る　波の寄の戸府より五里　興津由井の名今蒲原
山の麓波打際の城色作りの道なり俗名新道と云なり
道なり尤平山の岸けちかく右を波うちよせて
清水流るゆく新道あり此道を
年を経て岸辺波うち寄せくるる色き松となり明暦の
より心寄うの山路開紀蒲原城古の蒲原山道
今の道なりあるを西のかた蒲原村といふあるを
蒲原城　尊氏の陣場あり波の寄るとは蒲原郡
今の世に人家なりとは別なり　古昔は道路色うりるを
色目みちめなる住来人立とやうて書波用波路ぬて

小波のうちはけりるゆく浪の寄るを波の寄の戸
やりるとこそ

長明道の絶もなき海とある荒磯の岩れたる所ゆき過
祖母ぬ川風とり紅葉井家海浜と動海ありて紅葉
はたる道ひなれりして　ほそまとなる神のたはもて
ハかけそと思ふとうしそひの元地かしなりおちそうれ
海中ひたはし又海岸花月如像とる所を風飄
る翻る波ぬ　波浪とうみ寄れて人家ちる海行客
あり身をそうてもとうてもとうくるも動く浪なゆうりくく
いはれ色海方を嶮岩のりと岩のうと海色のき右を
ぬとうなる海浪のうちの色の眼うぬ色

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

[illegible]

右岩城山 油断[illegible]

名[illegible]

東[illegible]

○藤壇山 薩埵山舊名磐城山古者以為駿河蘆原二国界壁立枕海古道在山根所謂親不知不子知之險也 今道天明中所開

此山[illegible]

の像漁人の網[illegible]

日名[illegible]

[illegible]

[illegible]

○城丹寺 吉城山 由井北阿僧村あり

○薩埵山の陣場 由井寺尾山あり 内房へ三里 横道へ二里余

尊氏舎弟直義入道慧源南朝へ降属ありしに尊氏将軍鎌倉へ攻寄て直義入道
より又観應二年十月尊氏将軍鎌倉へ攻寄て直義入道
伐誅罰ありて東国へ下向し給へとも其勢僅三千余騎なり
諸国の味方と赤松等へ書らるれい十月後別薩埵山へ打
東北の頂に張要害を構へて見渡す高倉禅門慧源
鎌倉に立て薩埵山へ上り一方は上杉民部大輔憲顕
大将として二十騎由井蒲原へ向ひ一方は石塔入道
ひの長右馬頭義房武蔵国の大将として十万余騎宇津谷峠
へ廻て押寄る舎弟内惣大将なれも宗徒の勢十万余騎伐

従て伊豆の守の方へ扣へらるる彼薩埵山へ三方を喰詰て
谷深く切れ一方は海深く岸高く時の敵誅伐の所騎
ありしと也 [illegible] 寄る
又十万騎 [illegible] 兵いこ千余騎 [illegible] 馬疲れ粮乏しれい
其山の麓へ [illegible] 中 [illegible]
こ千余騎 [illegible] 横野 申井横野の道 [illegible] 薩埵山へ
扣寄 [illegible] 城 [illegible] 南麓の一族等三百余
騎 [illegible] 城中の
[illegible] 一所 [illegible] 所の [illegible]
[illegible] 切て [illegible] 大石 [illegible]
陣の寄手 [illegible] 人馬の [illegible] 失度る
[illegible] 救 [illegible] 角て尊氏方の後詰の軍勢

東國より武百騎寄来而五十万の勢を率し堺へ渡
を十方に落行り禪門と伊豆の北条へ落行りとぞ
○八幡平　興津河原陣場
永祿十二年四月北条氏康小今川の援軍と称さく氏康東
父子四万五千の軍勢を率し四十八日後列を設し薩埵山八
幡平由井蒲原に陣し甲斐武田押へ押へ信玄軍を
山懸三方に分る千人百の一備を山西に押へ駿府衛
らしむ自ら一万八千の神君を率て興津河原に陣へ
戦陣せらるる桃井義孝と
戦決せらるる数日をへらるる
同年三月　神君
神君見付城に出陣遊ばる所
懸川より今川家の城云等四中の一揆を催し徳川に敵
敵を
神君仰せ今山瀬に出川神国に攻寄
今川家の諸士代を顧て郡内に戦ひ年て本陣
に出る諸軍群列して力戦今川家随一の士百
十八人討死して後列股肱の勇士等戦死氏真と為方
なく和議を請へ
神君浜原にて小倉内記に
陣に伺ひ氏真に謂て曰我義元の恩顧に蒙る事
深しかるのみなら浜罪文を書て如れと今川家に
て歌を詠ん此とらへ人の妨に国を出義元
の及ぶ今遠列に賜らハ何後陣を設ん若少第氏康
決損ぶ若敗列に四て甲斐武田氏真再

駿府を始めとして氏真以下を悉く誓書を納請
得て和親し遠列に如く　公は国沢　公は駿
内藤伊勢守を氏康の三浦の陣に作り出し
ふ　五十余軍勢を氏真に迎へ五月廿六日撤退
彩雲　海を渡る　神君　松平若狭守を以て長列
土倉を送らしむ　茲に於て氏康と約し甲斐沢軽平遊
くして氏康鎌倉を攻め甲斐と有
日戦ふ　神君を主として駿府を攻る　四形戦し
敗れて逃る　信玄甲府を出て庵原山に逾て甲列を過ぐ
世に経路なきを以て吊集人々導きて山伝に甲列を過ぐ
庵原川の河を渡り太平山大瀬神に甲府を過ぎ今の興津に万沢に
此条の軍を過ぎ敵を遠ざけるなり
於茲　神君河永太郎を遣し日向守

久能城に小倉内蔵助を令して館を築き駿府を建て
城殿国を大官と　氏真を以て土倉に　茲に徒らに走る
神君氏康の力を倚て帰り永禄十二年元亀元年の冬氏真遠駿
列代領地を以て城年号寺院に賜く朱印今
注に　信玄甲府を出て故小条氏康と和小田原に帰陣の付蒲
原の城に小条殿に大官神国家小条陸奥守氏照居
善徳寺の城に大藤九郎左衛門清し主水助奥国寺の城等軍士代
義らの
同年六月十七日信玄甲府代発し市川の桃園に出張沢或宮
是より長列を丸坊し河鳴蔦に陣沢一宿大雨法水して陣屋
武具漂流し軍卒溺死多し　廿日駿河田重宝八幡大神
義家より伝来の鎧も流失す　因て甲列
に帰陣　後八月信玄小田原へ乱入
勝利を得て凱陣沢　信玄駿列城を　迎て孔明沢

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

徳川方に為家の遺し後図年十二月六日二万騎の兵を率して
蒲原へ押寄城を北条村三市氏時
攻別る由大宮為り加勢へ出張し軍門岩岡氏攻戦
田舎を遮らんとて出て郭外に戦ふ然れども城中より援人有て
清野山観音堂より敵を引入
放氏時敵陣を突入て討死し其余の兵卒悉く討取吹上に
本松あり勝間田氏代りとなりて蒲原山へ向う 蒲原奥津の敵
城を攻る 一云道場山より勝頼城へ寄入一云 城中に
放 豊七日信玄至て後府代せし 城代長谷川
正綱同治部左衛門能拒戦く寡兵次信玄甚至剛武威く
臨海寺清水に和睦なして 岡部氏驕り弾きさし岡部氏分
さんに為して城を至て信玄 禄十貫を以長谷川
永禄十三年庚午元亀 敗元 八月 老臣小原肥前守又
一子三浦右衛門山西九郎の城を攻 信玄驕り振りとして
話を図て岩部氏 四月廿日さんて 攻伊豆
伊豆城を小原 治部大輔 図横左衛門大輔大軍公奥平信濃
井伊谷の城 松平戸倉 松平蔵文 三浦左衛門等 籠城数日
城主岡部治左衛門来て先鋒 次 放て是を射殺
寄手入替し戦て城門を破 城を叫び次 遠江逃亡次 家
遠江高天神 後行中 岩部氏八郎 城代 長谷川
徳川家明友の 行 城 城 城 是を殺
図く氏真 復府の 城代 再び信玄 攻られ又源泉して小
田原北条氏康 憐て 甲州 和睦の事 宅 終して
をき清水 次 其後氏真 氏政 和睦 相列
出て時 遠列 行く
神君 代 源 村 知らず

八百貫の所領を入れられ感悦あり甲斐の武田信玄再後河を奪ひ合ひ領し天正十年迄武田の領国となる

○入江庄合戦

鶴氏廿三年鎌倉の前執事上杉右馬頭氏憲入道禪秀謀叛大納言義嗣卿の隠謀の内意を浮て及逆企て扇谷退隠して逃倉殿の侍会見左馬佐持仲を奉ず執事東宗徒の大名共忍て相謀りて鶴氏廿三年十月十九日鎌倉会戦の支度を為せり義嗣卿密謀覚て出奔し禪秀出れ共安堵へ出奔し禪秀出れ共安堵へ出奔し禪秀出れ共安堵へ

英慶ハ番ヶ又百余騎ヲ会ス是後ハ京都ノ
援ヲ後ラ大勢ヲ加ラルヲ以テ俄ニ伊賀ヲ出テ
三ヶ所ヨリ山西奥津中井浦ヲ入江ヲ経カ
為ニ伊賀ヲ経テ駿府本九市ヲ通リ府横溝ヲ田沒茂色藤
相列ヲ経テ相川村渡ヲ野原ニ陣ヲ張テ
地形ヲ引ク強ク持氏無没大勢ヲ率ヒ頻テ攻撃ス
遠寄ニ攻ントス諸ヲ聞テ上杉入道西ヲ伺ヒ
の分際ニ見ヲ為ス未ダ勢ヲ出サヌ故ニ
方ヲ押撃敗セントス千葉小山長沼三浦葦名川越遠山
駿府宮城合千騎四万余騎長柄山ニ新入江庄の山際
ヲ寄テ陣取リ是ヲ敵の陣所近ク杉原道三千里ニ陣ス

中ニ入ハ未遂の内ヲ敗ス明ノ事ニシテ上杉ニ知ラシテ無
ヲ以テ皆帯刀仕幕の陰ヲ伏ス上杉ニ居ヲ引ク左馬助ヲ
上杉ハ許ス大勢ヲ用ヒ引ク待軍ヲ敵ヲ機ニ乗ルヲ以テ
四面ヲ囲ヲ付ル又ハ制ス利ヲ以テ我ヲ猶山西ヲ御ス
ヲ用ヒ情ヲ尽セ山ヲ山麓ヲ遠策ニ結ヒ所の案内ヲ
二百騎人馬用意ヲ調テ相図の時刻ニ寄ヲ引
ヲ何れとも二ヶ所ヲ合ヲ見テ各油断ヲ
等五ヶ条ニ答ヲ合セ其後三十里の所ニ二ヶ所ヲ
付入江の宿の内ヲ山際ヲ林の陰ヲ人馬の長ヲ
セリ十二月廿八日の事ナリ夫ハ利ヲ玄人の勇夫
鷹ヲ以テ刑ヲ知ル言ヲ海風刻ヲ吹ル敵ヲ

寄へ死を以て防ぎ戦ひ火所々に焼き立み陣を
油断せざる所の件の二百余人の外に第く赤鬼の別隊
成敗せ義みの落ちる所中寄く後に磐石の如く別隊如
陣中の箭かを射かけ進と志注の如く切く敵の技を
寄ひりの業のごく敵足を驚躍て驚破敵の寄しるとて
朋色明りの風情紙見く入江庄内井竹の宅亮の
を蛮とも中作の一村ごりの面の紙を横に為て遠矢長矢
遣矢を矢別紙を定四方に拡め射出りの元来の門
狭紀入江庄の豪強紙体を如く寄軍勢なるを
射る矢の人を所を所りの前陣の勢を足紙後陣
の者を敵と成今く後失射る拾と心得後陣紙気を

五日味方紙危とお後定りと遣りの所を左馬氏持氏
城戸田中里見鳥山岩松桃井一色将野小弟紙初翌に
進りも城に大鳥大鍬大井田山名瀬谷小代貞工藤二階堂
岡田渋谷松田河村の名十八騎紙兵隊に列て僅三十八騎
とを以て勇りれど敵足注て の勢の所と年四月の
りりの中や徒引(スヽキ)の門を大勢に駆紙截るな後に切所を
今か門退て戦へとて先陣後陣一所にて孔重り引孔
と上枝の四方余騎背て一左力と打合て大将蓬一騎
て戦へといへとも土卒耳に聞ず中の人を多く過て
ふと所せとも知られども是紙中やかも拾となく行先
狭き岩の間紙拾紙拾とも云中紀合たり手路給に

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8
ガラス使用

如く荊棘岐を閉ち或は峻岡の岩磨仆穿て細路仆
海し道なせり向えい海せつし
追掛きう遂ついにとうんとそれ
江遂して進退斷る谷法て見えしい中々臨留て腹
切とあう事る時方紙引仆押陣或る臨殺れ寄臨れ自
士撃る死きる者其身をもう次溝塹いさなうら死人る切きて
平地るかう流川派うれく迫るのるる中と京師城郭の大
路を行る長なう次入江庄うう富士川の色まて其道四五里う
設ゝ寄ゝ馬武具充満て文る天下の秋と無りう 右続太平記
太平記曰建武二年七月小笠相模次市時行軍仆無して鎌倉仆
攻んとて此付渡倉執権長利直義朝臣鎌倉仆落て上路

せられ 其路次るかいく後河四入江庄い海道第一の難所なう
相模次市うるかの者若此道をや塞きやきんと士卒皆
足仆差く思うう因茲其地仆入江左面の厨春倫う許へ使仆
遣憑へ仆由ゝ仆あうるて春倫義の所仆四ゝ女入江庄
とゝ宋宗德領ゝて有し仆胡思るかし賜て天恩の上るれ
義と東あうとて則古迎るる奉りとゝを
奥津山西入江庄の陣場此仆長尻市詳奥津江尻の南北城ゝ仆今る
江尻る入江とゝ邑あう但奥津山西ハ庵原の山家仆ゝ仆或ゝ瀬谷
高橋の山境持氏の陣場仆義蔭ゝ西奥津川ゝ色上杉禅秀
ゝ陣場仆猶可尋考

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

特1000
8

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用

国立国会図書館　駿河国志 8巻　特1000-8

ガラス使用